

卷頭言

次代を生きる子どもに必要な学力と数学の役割

数学部会長 三木 千恵子

今年6月に開催された数学部会総会におきまして、齋藤茂先生の後任として部会長を務めることになりました。微力ではありますが、千葉県高等学校数学教育の振興のため誠心誠意努めてまいりますので、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

今年度の数学部会誌「 $\alpha - \omega$ 」第54号を発刊しました。本部会誌は昭和39年の創刊以来、数学教育全般にわたる啓発活動、先進的な研究や授業改善に向けた取組等を広く紹介してまいりました。これも日ごろ熱心に研究を行っている先生方から寄稿していただいたおかげであり、厚く御礼申し上げます。

さて、現代は高度情報化・グローバル化が急速に進展し、我が国もその大きな変化の中に立たされています。知識基盤社会と言われている世界の中で日本が生き残るためには、予測がつきにくい社会に対応できる人材を育て、科学技術創造立国を発展させる必要があります。今年3月に出された高大接続システム改革会議の最終報告では、これから身につけるべき学力が挙げられています。また、中央教育審議会の教育課程部会ではその学力の視点は「生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」としています。その育成のためには、主体的・対話的で深い学びであるアクティブラーニングの視点から学習過程の質的改善が必要であると示されています。具体的には生徒の学習方法と教員の指導・評価方法の改善が求められているのです。

数学は自然科学や社会科学等あらゆる分野に活用される実用的な価値をもった学問です。また、論理的な厳密性や完全性に加え、美しさなど数学が本来もっている文化的な価値もあります。さらに、数学を学ぶことは、論理的な推論、端的な表現、統合的な見方など、思考力や探求・分析的な態度を養うのに最適であると考えます。まさに数学的な見方・考え方はこれからを生きる子どもたちに必要な学力であり、数学は重要な役割を担っている教科であるといえます。

その学力の確実な定着のために取り組むべきことは、教員の指導力向上です。生徒の深い学びのためにも、我々教員が授業改善に向けて不断の努力をしていかなければなりません。本部会も次代に求められる教育をいち早く研究し、先生方の参考になる取組を積極的に取り入れてまいります。

最後に高等学校数学教育の一層の発展を心より祈念申し上げます。